

教育の方法・技術

第1講 教育方法の歴史 ～教えと学びのパラダイムの交錯～

齋藤 陽子(岐阜女子大学)

第1講 「教育方法の歴史 ～教えと学びのパラダイムの交錯～」

【目的】

学習観の変遷を理解し、現在の学習観で求められる主体的に学ぶ態度を身に付けた学習者像を考える。

【学修到達目標】

- 学習観の転換が図られていることを理解し、説明することができる
- 現在の学習観において、重要視されてる学習者の主体的に学ぶ態度（自律的な学び）について、具体例を示しながら説明できる

【教育方法の歴史】

- 「教育とは何か」
 - 「学ぶとは何か」
-

【教える行為】

古代ギリシア：伝聞・口承の行為

- ソクラテス：対話をすることによる「問答法」
- プラトン：子供を素質に応じて振り分け，真に「知恵」を有する者を支配者にする教育制度
- アリストテレス：教育には実用目的のものと，人間的な教養のためのものがある

【近代教育システム 1】

「学制」（明治5年）の近代学校制度の確立

- 一斉授業の形式が確立
 - 欧米の教授法を基として小学校教育の方法を確立
（師範学校教育の第一歩）
← アメリカ人のスコット（M.M.Scott）の功績
-

【近代教育システム2】

ハウスクネヒトによる

科学的な「教育学」への転換

- ヘルバルトの教育学 = 「科学的な教育学」
- よりよい教育には「管理」, 「教授」, 「訓練」が必要
- 授の過程としての「四段階教授法」
 - = 教授を「明瞭」, 「連合」, 「系統」, 「方法」の四段階に区別
 - ⇒現代の単元学習につながる

【行動主義的学習論】

「学習とは、目に見える行動の変化」

(目に見えない事柄は、対象としない)

■ 「学問中心カリキュラム」

■ スキナー (Skinner) : 「スキナー箱」による実験

→ 「オペラント条件づけ」

学習は訓練によってだれにでも身につけさせることができることを理論化

【認知主義的学習論】

「感情や態度，意識」なども，
人間の学習を理解する上で欠かせないこと

- 学修目標に関するタクソノミー（教育目標の分類学）
＝ブルーム（Bloom, B.S.）
- 学習には，「認知的領域（思考）」と「情意的領域（感情）」，「精神運動的領域（行動）」の3つがあると主張

【構成主義的学習論】

学習者は自ら外部に働きかけ
知識をつかみとる力を持つ存在

- ピアジェの考えに基づく
 - 人は自らのいる環境で、回りにある材料を使って行動する過程で、自らさまざまな概念や知識を学び取るのである。
-

【社会構成主義的学習論】

学習者は相互に対話し学びを深める

- 互いの知恵で補い合う
 - 「一人」で有能ではない
 - 様々な人と一緒に「生きる」ことで有能に振舞っている
-

【学習者】

受動的なもの



能動的なもの

課題

1. 教育方法の歴史としての、学習観の変遷を、学習者の具体的な姿を示し、述べなさい。
2. 現在の学習観において、重要視されてる学習者の主体的に学ぶ態度（自律的な学び）について、具体例を示し、述べなさい。

第1講 「教育方法の歴史 ～教えと学びのパラダイムの交錯～」

【目的】

学習観の変遷を理解し，現在の学習観で求められる主体的に学ぶ態度を身に付けた学習者像を考える。

【学修到達目標】

- 学習観の転換が図られていることを理解し，説明することができる
- 現在の学習観において，重要視されてる学習者の主体的に学ぶ態度（自律的な学び）について，具体例を示しながら説明できる

教育の方法・技術

第1講 教育方法の歴史 ～教えと学びのパラダイムの交錯～

齋藤 陽子(岐阜女子大学)